

キャラクター名
御堂 彰

プレイヤー名

シンドローム	ソラリス オルクス	ワークス	UGNエージェントD	カヴァー	精神科医
オプション		年齢	25歳	性別	男性
覚醒	憤怒	衝動	破壊	初期侵食率	33%
出自	姉妹	経験	喪失	邂逅	恩人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	25
肉体	0	0	1			1	行動値	5
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	5
精神	2	0	1			3	戦闘移動	10
社会	5	1	1			7	全力移動	20

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	1		交渉		3
回避			知覚	1		意志			調達		3
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN		3
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
マインドブレイク	交渉	9r+3	8	2		コンセントレイト:ソラリス+抗いがたき言葉+絶対の恐怖+錯覚の香り
マインドブレイク	交渉	10r+3	7	3		コンセントレイト:ソラリス+抗いがたき言葉+絶対の恐怖+錯覚の香り
幻惑の世界	交渉	9r+3	10	0		束縛の領域+錯覚の香り
幻惑の世界	交渉	10r+3	10	0		束縛の領域+錯覚の香り

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
防弾防刃ジャケット	6	3	-	-	

所持品	
コネ: UGN幹部	
コネ: 要人への貸し	
コネ: 手配師	
白衣	
カジュアル	
スーツ一式	
携帯電話	
アクセサリ	
思い出の一品	

合計装甲: 3 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリ	消費
記憶探索者	P	N		
御堂 凧咲	P 庇護	N 悔悟		
テレーズ・ブルム	P 尊敬	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 20 残り財産P: 9

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト:ソラリス	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果:	C値-LV(下限値7)							
絶対の恐怖	2	3	メジャー	視界	-	交渉	-	
効果:	攻撃力:+LVの射撃貫通攻撃							
錯覚の香り	2	2	メジャー/リアクション	-	-	交渉	-	
効果:	これを組み合わせた判定にダイス+LV個							
束縛の領域	1	5	オート	至近	自身	交渉	80%	
効果:	相手の判定に対決し、成功した場合その攻撃は失敗となる。タイミング:リアクションのエフェクトを組み合わせられる。シーン1回。							
抗いがたき言葉	1	2	メジャー	視界	単体	交渉	-	
効果:	射撃攻撃を行う。命中した場合、そのシーンの間、対象が行う判定のダイスをLV個減少。							
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

私は御堂 彰(みどう あきら)。UGNのエージェントをしている。
私が普通の人間だった頃、私と妹、父と母の4人家族で、平凡で、幸せな家庭を送っていた。妹は私の4つ下で、いつも笑顔を浮かべた活発な女の子だった。しかし、少々寂しがり屋の部分もあって、幼い頃は両親が居ない時は私に甘えてきて、1人になると泣いてしまうような可愛らしい所もあった。

それから妹は高校を卒業すると共に、都市部にある有名大学に通う事になり、1人暮らしをする事になったのだが、女性1人で生活するのは危ないと両親から言われ、妹の願いもあって、私も一緒に妹と都市部の方へ引っ越す事となった。私もたまたま医師免許を取り、都市部の方にある精神科を専門とした病院へ就職する事が決まったので、特に拒む理由も無く、すんなりと引っ越し作業を行う事が出来た。

それから私は妹と2人暮らしをする事になり、私は医者として、妹は大学生として生活を始め、最初は色々戸惑う事も多かったが、時間が経つにつれて2人で食事を取る時間を作るくらいには慣れてきていた。
これからも、こうして平穏な日常を過ごしていくのだろう。その時の私は、本気でそう思っていた。

しかし、そんな願いはあっさりと崩れてしまった。まるで、ふとした瞬間に床に落とし、ボロボロに崩れてしまったガラス細工の食器のように。

ある秋の日、妹が何日も帰って来ない日があった。たまたま連絡を忘れて友達と遊びに行き、数日後に帰ってくる事もあったが、その時は3日も過ぎてなお、妹から何の連絡もなかった。これはおかしいと思った私は、警察に捜索願いを出し、自分でも出来る範囲で妹を探す事にした。

そして、私は翌日、近くの総合病院で妹と再会する事が出来た。だがそれは、とても悲惨なものだった。
妹は壊れてしまった。着ていた服はボロボロで、体中に殴られたような跡や、擦り傷のようなものが付いており、そして、何かに怯えるかのように常に震え、突然暴れ出したりしていた。

妹は警察によって、都心部から少し離れた場所で保護された。その時にはこのような状態であり、なんらかの事件に巻き込まれたものとして捜査をし、原因を